

最新型MRIを三台導入！ アーカンソ・ハートホスピタルと提携！ 最先端医療体制を整える

松弘会 三愛病院 トワーム小江戸病院



患者の尊厳を重視し、愛情込めた医療の提供を目指す
 「トワーム小江戸病院」

小江戸病院でGE社製の最新型MRI3・0テスラを導入。さらに、一・一年春には三愛病院で同じMRI3・0テスラの追加導入も契約済みだ。

両病院に導入されるMRI3・0テスラはMRI1・5テスラに比べて二倍の磁場強度を持つっており、従来のものと比較しても超高速撮影に優れ、高速かつ高画質な検査が可能になる。しかも、鮮明な画像診断が得られるだけでなく、より小さな病変を早期に見ることができる。

特に頭部検査にその威力を発揮すると言われており、「一ミリの程度の微小出血や脳脊髄液の流れをリアルタイムに描出でき、認知症の診断に大い

に役立つ」と済陽氏は自信を持って語る。

なぜ済陽氏は認知症患者の「治療」にこだわるのか？

それは済陽氏の母親が認知症から立ち直ったという出来事が起きたからだ。

済陽氏は振り返る。

「私の母はトワーム小江戸病院の開院時から入院していたのですが、常々女学生時代の話をしていたので、回想療法を試みました。母の旧友にメッセージをお願いしたり、当時住んでいた町を撮影したりして、それをビデオレターとして母に見せました。すると、心ここにあらずの状態が、無表情だった母の顔色が見る見るうちに変わったのです。そして、昔の思い出話を語りながら笑顔を取り戻した」

認知症は全てが治らない病気ではない——。済陽氏がこのことを確信した瞬間だ。

トワーム小江戸病院ではマルチスライスCT、キセノンCT、外科用イメージ（Cアーム・テレビレントゲン）、超音波診断装置、消化器内視鏡検査器（経鼻内視鏡胃カメラ）、PEG内視鏡、ERCP、生化学自動分析器、人工呼吸器、トレッドミ

医療法人社団松弘会の沿革

1985年 4月	理事長 済陽輝久が三愛病院を設立
1986年 10月	救急指定病院となる
1992年 3月	MRI導入
1997年 4月	医療法人社団松弘会 三愛病院となる
2003年 12月	MRI機種変更(1.5テスラ：高傾斜磁場/シーメンス製シンフォニー/全国4台)
2004年 9月	ガンマナイフセンターオープン
2006年 4月	介護老人保健施設「トワーム熊谷」開設(100床)
2006年 7月	介護老人保健施設「トワーム指扇」開設(100床)
同	介護付有料老人ホーム「トワームみずほ台」開設(48室)
2008年 6月	認知症専門病院「トワーム小江戸病院」開設(200床)
2010年	最新MRI3台(3.0、非造影剤タイプ2台、1.5タイプ1台、いずれもGE製)導入予定



わたよう・てるひさ

1975年 東邦大学医学部卒業。78年まで同大学院整形外科で勤務。日赤医療センター麻酔科、磯子中央病院勤務を経て、85年に三愛病院設立。院長に就任。総合診療科、整形外科を担当。97年医療法人社団松弘会理事長に就任。日本麻酔科学会麻酔科認定医、健康スポーツ認定医、身体障害者認定医。

認知症専門病院に最新型MRIを導入した「トワーム小江戸病院」

「一人でも救える命を救う。それがたとえ認知症患者であっても同じなんです」。自らの医療理念をこのように語るのは、埼玉県さいたま市桜区にある医療法人社団松弘会理事長の済陽輝久氏である。

同法人は元々急性期病院の「三愛病院」と同病院内にある県下唯一のガンマナイフ治療施設「さいたまガンマナイフセンター」を核として、県南東部の地域医療の振興を引っ張ってきた。

そして近年は「トワーム熊谷」「トワーム指扇」「トワームみずほ台」の介護老人保険施設、介護付有料老人ホームを相次いで開設して介護事業にも進出し、さらに二〇〇八年六月には認知症専門病院「トワーム小江戸病院」を開院し、「認知症患者を治療する」という病院経営を実践するに至っている。同病院は開院から二年半で約六百五十人の入院患者を退院させている。高級感のあるホテル仕様の建物の中で、合併症の治療と共に認知機能のリハビリテーションとして、ドッグセラピーや音楽療法、園芸療法なども実

践しているのだ。

今回、松弘会では最新鋭のMRI（磁気を利用して体内を縦横に撮影できる医療機器）を三台導入する。三愛病院では一九八五年の開院以来、常に新鋭の画像診断装置を導入してきた。

二〇〇三年には当時世界でも高水準だったシーメンス社製のMRI1・5テスラ（ソナタ）を設置。その後、一〇年八月末にはこれをGE社製の最新MRI（冠動脈撮影ができる）1・5テスラに入れ替えている。また一〇年十二月にはトワーム



12月2日の調印式にて(左)アーカンソ州 AHH、右がブルース・マーフィー院長

ル、大腸ファイバー、気管支ファイバー、高気圧酸素治療装置といった一般の認知症病院では見かけない機器を完備。また一〇年三月に小腸カプセル内視鏡を導入し、患者の身体的な負担が少ない方法で、虚血性腸炎などの検査を可能にしている。

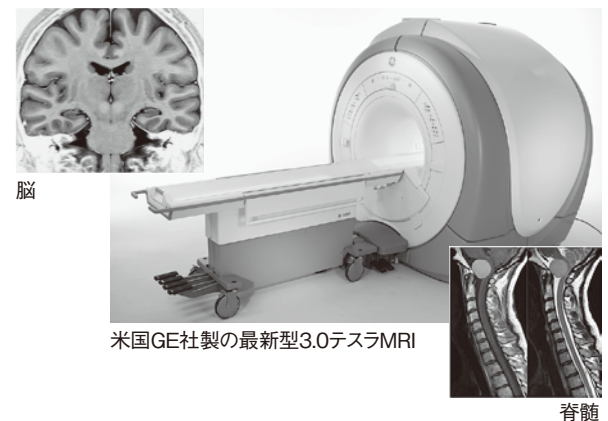
「HHPJ」との提携で 効率経営を目指す「三愛病院」

しかし、最先端の機材を導入することも大事だが、病院経営や人材育成も重要。

そこで松弘会は循環器分野に強い「ハートホスピタルパートナーズオブジャパン（HHPJ、本社東京）」と提携する。HHPJは患者満足度で全米トップクラスの「アーカンソ・ハートホスピタル（AHH、



最先端の医療機器をそろえ「HHPJ」と提携した「三愛病院」



米国GE社製の最新型3.0テスラMRI

脊髄